

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2020

－人・スポーツ・未来－

開催要項

1 開催趣旨

平成27年10月1日にスポーツ庁が発足し、平成29年3月には第2期スポーツ基本計画（文部科学省，平成29年3月24日）が策定された。第2期スポーツ基本計画においては、スポーツ参画人口を拡大し、スポーツ関係団体がこれまで以上に新たな取組を行うとともに、異なる分野の関係組織と効果的かつ密接に連携・協働することにより、「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことが求められている。

そこで、本会議では、スポーツ立国の実現に向けて、スポーツに関連する多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討する。

2 主催

スポーツ庁、生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会（公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本レクリエーション協会、公益財団法人日本体育施設協会、公益財団法人スポーツ安全協会、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合、公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、島根県）

3 後援

体力づくり国民会議、厚生労働省（申請予定）、経済産業省（申請予定）

4 期日

令和2年2月7日（金）

5 日程

受付 9:15- 10:00 (45)	オープニング 表彰式 10:00- 10:35 (35)	全体会 10:40-12:30 (110)	昼食休憩 12:30-14:00 (90)	分科会 14:00-17:00 (180)	情報交換会 18:15-19:45 (90)
展示：9:30-17:30					

6 会場

松江しんじ湖温泉 ホテル一畑
〒690-0852 島根県松江市千鳥町30
TEL 0852-22-0188

7 全体テーマ

「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーに向けて ～ Sport in Life (スポーツ・イン・ライフ) ～」

いよいよ開催が迫る2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機にスポーツへの関心が高まることで、「する・みる・ささえる」といったスポーツ参画人口が拡大し、健康で生きがいのある社会を実現することこそが、目指すべきゴールであり、後世に残すべき大会の重要なレガシーである。

スポーツは、健康や体力の維持・増進に役立つだけでなく、一人一人の人生をより豊かに充実させ、人々に夢と感動を与え、地域社会を活性化させるなど多種多様な大きな力がある。

このスポーツの価値を広く国民に伝え、年齢や性別、障害等を問わず、全ての人がスポーツを楽しみ、喜びを得て、生活の中に自然な形でスポーツが取り込まれる「Sport in Life」という姿を目指すため、スポーツ関係団体等に求められる新たな連携・協同方策について協議を行う。

※レガシーは近年国際オリンピック委員会（IOC）が最も力を入れているテーマの一つで、オリンピック憲章には「オリンピック競技大会のよい遺産（レガシー）を、開催都市ならびに開催国に残すことを推進する」と定められている。

8 内容

(1) 全体会（トークセッション）

ア. テーマ

「みんなで一緒に Sport in Life で生き生きとした人生を！」

イ. 趣 旨

スポーツ庁が2019年7月1日に発表した「Sport in Life プロジェクト」は、多くの国民がスポーツを楽しみ、スポーツを行うことが生活習慣の一部となる社会を目指すことを目的としている。スポーツを推進する地方公共団体、スポーツ団体、経済団体、企業等が一体となり、オールジャパンでスポーツ振興を促進していくプロジェクトである。

そこで、本セッションでは、スポーツを通して健康で、生き生きとした人生を送ることができる地域社会をつくるために私たちは何をすべきか、様々な分野の専門家が集い、本音で話し合う。

ウ. 演 者

・ファシリテーター

福田 光男 氏 NHK松江放送局 アナウンサー

・スピーカー

鈴木 大地 氏 スポーツ庁長官、ソウル五輪 金メダリスト

原 久美子 氏 循環器中町クリニック院長、マールポノ(株)代表取締役

ペナルティ ワッキー 氏 吉本興業株式会社 所属タレント

(2) 分科会

ア. 第1分科会 ◆公益財団法人日本スポーツ協会

「女性が健やかに、美しく、生活を楽しむためのスポーツ環境づくりを考える」

イ. 第2分科会 ◆公益財団法人日本レクリエーション協会

「人生100年時代！「楽しさ」を重視したスポーツ・レクリエーションの可能性」

ウ. 第3分科会 ◆公益財団法人健康・体力づくり事業財団

「Sport in Life を環境から仕掛けてみる～スポーツで健康な街づくり～」

エ. 第4分科会 ◆公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

「Sport in Life の実現に向けた、スポーツ現場でのリスクマネジメントを考える」

～いつでも、どこでも、誰でも安心・安全にスポーツができる環境をめざして～

(3) 展示

生涯スポーツ・体力づくり関係団体、企業等のスポーツ関連活動を幅広く紹介するため、展示を実施します。

○展示時間 令和2年2月7日（金）9：30～17：30

9 参加者

地方公共団体関係者、スポーツ・レクリエーション団体関係者、各種産業界関係者、学識経験者、その他関係者（約700名）

令和2年1月14日（火） 募集期間を延長しました！

10 参加申込み（締切日：~~令和元年12月20日（金）~~）

本会議に参加を希望される方は、以下のURLより申込みをお願いします。

なお、インターネットによる申込みができない場合は、下記までお問合せください。

<インターネットによる申込み>

<https://req.qubo.jp/lifelongsport20/form/entry>

スポーツ庁又は公益財団法人日本スポーツ協会のホームページからも申込みいただけます。「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2020」と検索してください。

<問合せ先>

〒160-0022 東京都新宿区新宿3丁目8番8号 新宿O・Tビル4階

マッシュコーポレーション（株）

生涯スポーツ・体力づくり全国会議2020事務局

電話番号：03-6380-4621 Email：lifelongsport20@mash-inc.co.jp

（受付時間：平日9：30～17：30、土日祝日・12月28日～1月5日を除く）

11 参加費等

(1) 参加費 1人2,000円（資料代込み）

(2) 弁当代 1人1,200円（希望者のみ）

(3) 情報交換会会費 1人5,000円（希望者のみ）

[振込方法]

参加申込み受付確認後、請求書を申込代表者あてにE-mailにて送付（E-mailがない場合は郵送）いたしますので、請求書を御確認の上、指定の口座に期限までにお振り込みください。

12 留意事項

本全国会議への参加申込みは、以下の事項に同意の上お申込みください。

- (1) 参加費等については、理由の如何を問わず、お振り込み後の返金はいたしません。なお、参加申込みをした本人の理由で参加できなかった場合は、本全国会議終了後に配布資料を送付いたします。
- (2) 申込み時に登録いただいた個人情報については、本全国会議開催に係る事務以外の目的に使用いたしません。
- (3) 講演中の録音・録画・撮影等のご遠慮ください。なお、報道機関や実行委員会の事前許可を得た場合を除きます。
- (4) 実行委員会の撮影許可を得た本会議中の写真等は、主催者他のウェブサイト、報告書等にて利用する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 次のいずれかに該当する方の入場はお断りいたします。
 - ・凶器その他危険物を所持している方
 - ・酒気を帯びていると認められる方
 - ・本全国会議の運営を妨害したり、他人に迷惑を及ぼす等の秩序を乱すと認められる方
 - ・その他、実行委員会の指示に従えない方

13 その他

詳細及びその他不明な点については、下記にお問合せをお願いします。

スポーツ庁健康スポーツ課健康・体力づくり係
Tel 03-5253-4111 (内線 2998) Fax 03-6734-3792

公益財団法人日本スポーツ協会スポーツプロモーション部国内課 (実行委員会事務局)
Tel 03-6910-5811 Fax 03-6910-5820

なお、本全国会議は、以下のとおり各主催団体の公認資格に係る更新のための研修・単位等に該当します。御不明な点は、各団体にお問合せをお願いします。

- 本全国会議の参加により、クラブマネジャー他、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の更新研修を修了したことになります。なお、テニス資格は2ポイント、バウンドテニス資格は1ポイント、チアリーディング（コーチ3のみ）資格は都道府県体育・スポーツ協会実施の1回分の実績となりますが、別途、資格毎に定められたポイント獲得や研修受講などの要件を満たす必要があります。

ただし、次の資格については、更新研修を修了したことにはなりません。

[水泳、サッカー、スノーボード、バスケットボール、バドミントン、剣道、空手道、エアロビック（コーチ4のみ）、スクーバ・ダイビング、プロゴルフ、プロテニス、プロスキー、スポーツドクター、スポーツデンティスト、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士]（2019年4月1日現在）

詳細は日本スポーツ協会のホームページをご確認ください。

- （公財）健康・体力づくり事業財団が認定する健康運動指導士、健康運動実践指導者の登録更新のための単位を2単位取得することができます。
- （公財）日本体育施設協会が認定する公認指導者の資格更新要件の一つとなっています。詳細及び手続に関しては、（公財）日本体育施設協会のホームページを御参照ください。

<第1分科会> 公益財団法人日本スポーツ協会

1. テーマ

女性が健やかに、美しく、生活を楽しむためのスポーツ環境づくりを考える

2. 趣旨

第2期スポーツ基本計画では、その施策として、誰もがスポーツに参画しやすい環境の整備を進める上で、その重要な対象の一つに「女性」を取り上げ、女性のスポーツへの参加(参画)を促進するための環境整備による、スポーツを通じた女性の活躍促進を目標に掲げた。

この環境整備には、発育発達や身体活動量等、女性の身体的特徴に応じた指導や、年代・ライフステージ・志向などにより変化する女性の意欲やニーズ、考え方に合った働きかけや配慮が必要であり、月経周期異常を抱える女性競技者、運動不足の女子小中学生、「面倒くさい」を理由にスポーツを実施しない女性など、あらゆる女性の日常生活におけるスポーツ参加を手助けする「スポーツ指導者」や「保護者」、「学校関係者」等といった支援者がこれらの内容を理解し、女性と接することが重要であると考えられる。

そこで、本分科会では、日本スポーツ協会が2018年に作成した「女性スポーツ促進に向けたスポーツ指導者ハンドブック」の内容を踏まえ、多くの女性が健やかに、美しく、生活を楽しむことができるスポーツ環境づくりに向け、協議や意見交換を行うこととしたい。

3. 講師

○コーディネーター

川原 貴 氏 一般社団法人女性アスリート健康支援委員会 会長

○パネリスト

中村 寛江 氏 東京大学医学部附属病院女性診療科・産科

高峰 修 氏 明治大学政治経済学部 教授

藤丸 真世 氏 TBS テレビ／アテネ五輪 銀メダリスト

<第2分科会> 公益財団法人日本レクリエーション協会

1. テーマ

人生100年時代！「楽しさ」を重視したスポーツ・レクリエーションの可能性

2. 趣旨

人生100年時代。毎日を健康でいきいきと過ごすためにもスポーツを通じた健康づくりのニーズが高まっている一方で、「面倒くさい」、「年をとった」、「スポーツが嫌い」等の理由によりスポーツに親しんでいない人も多い。これらの人たちに、スポーツを通じた活力ある生活を少しでも後押しするためには、「楽しさ」と「誰もができる」という視点からのアプローチが1つの重要な要素となる。

今回は、「楽しさ」「誰もができる」を切り口にしてスポーツ・イン・ライフの実現に取り組む4つの実践事例（団体間での連携を試行している日本ウオーキング協会。町全体で取り組む熊本県南関町。学校現場（小・中学校）で取り組むレクリエーション協会。民間企業で取り組む吉本興業）をもとに、実技も交えながら、「楽しさ」を重視したスポーツ・レクリエーションの可能性について協議する。

3. 講師

○コーディネーター

松尾 哲矢 氏 立教大学コミュニティ福祉学部 教授

○パネリスト

井上 成美 氏 一般社団法人日本ウオーキング協会 専務理事

岩本 冷子 氏 島根県レクリエーション協会 事業委員長

城野 和則 氏 熊本県南関町教育員会 係長

ペナルティ ワッキー 氏 吉本興業株式会社 所属タレント

<第3分科会> 公益財団法人健康・体力づくり事業財団

1. テーマ

Sport in Life を環境から仕掛けてみる～スポーツで健康な街づくり～

2. 趣旨

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーの一つに、スポーツによる健康づくりが挙げられている。健康・体力づくりにスポーツ・運動の継続が重要であることは多くの人が理解しているが、個人の意思だけではなかなか開始・継続することが難しく、疾病予防等に必要な運動・身体活動量を確保できている人口は増加していない。そこで近年は、個人への働きかけだけではなく、居住エリアやスポーツ施設といった個人をとりまく環境に着目し、おのずと運動実践へ誘導する仕掛けや環境などに関する知見が蓄積されている。

そこで、本分科会では、スポーツや運動に親しみ、健康に過ごせる街をどのようにつくっていくべきなのか、事例や知見を報告しながら考えていきたい。

3. 講師

○コーディネーター

藤原 佳典 氏 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チームチームリーダー（研究部長）

○パネリスト

辻 大士 氏 千葉大学予防医学センター特任助教／健康運動指導士
上代 圭子 氏 東京国際大学人間社会学部准教授
北湯口 純 氏 身体教育医学研究所うなん主任研究員（主幹技師）／健康運動指導士
近藤 尚己 氏 東京大学大学院医学系研究科健康教育・社会学分野准教授

<第4分科会> 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

1. テーマ

「Sport in Life の実現に向けた、スポーツ現場でのリスクマネジメントを考える」 ～いつでも、どこでも、誰でも安心・安全にスポーツができる環境をめざして～

2. 趣旨

「Sport in Life」の実現には、いつでも、どこでも、誰でも身近な地域で安心安全にスポーツができる環境が求められている。ただし、スポーツ活動中、安全に十分配慮しても事故やケガは起こり得るため、スポーツ指導者や施設管理者はあらゆる事項に対する事前の確認が欠かせない。また、事故やケガは「環境」や「人」など様々な要因で発生すると考えられ、特に障がい者スポーツの分野では、障がい特性の把握が安全な指導につながるため、障がいの基礎知識や身体的特性を理解しておく必要がある。

この分科会では、まずスポーツ場面で起こり得る事故やケガの発生要因について整理する。次に、障がいのある人のスポーツ活動場面で実際に取り入れている安全配慮に関する工夫についてパネリストより事例を通じて発表してもらおう。最後は障がいの有無に関わらず全ての人が安心・安全にスポーツを楽しめる環境づくりについて会場全体で考える時間とする。

3. 講師

○コーディネーター

増田 和茂 氏 公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会 専門員

○パネリスト

猪飼 聡 氏 京都市障害者スポーツセンター次長 上級障がい者スポーツ指導員
中山 育美 氏 NPO 法人しいだコミュニティ倶楽部 クラブマネジャー
岩崎 満男 氏 元車いすテニス日本代表選手